



宋九像傳

唐宋二十一家像傳坤

芝浦 河原英吉 述

周濂溪傳

姓ハ周、名ハ惇頤、字ハ茂叔、道州ノ人ナリ、博學力行
道ヲ聞テ解スルト早シ、事ヲ處置スル剛果ニメ、自
然ニ古人ノ風致ヲ存ス、政ヲ行フ精密ニメ、且ツ嚴
恕ナリ、務テ道理ヲ究メ、名節ヲ以テ自ラ礪ス、其居
窓前ノ草ヲ除カズ、或人其故ヲ問フ、對テ曰ク、吾ガ
意思ト一般ニメ發生ノ氣ヲ含ム、除クニ忍ビスト、

尤モ佳山水ヲ樂ミ、又蓮ヲ愛ス、廬山ノ麓ニ一溪川
アリ、心甚タ之ヲ喜ス、因テ茲ニト居ス、濂溪ト號シ、
書室ヲ其上ニ築キ、情ヲ風月ニ怡ス、茂叔、仁、英、神ノ
三帝ニ仕テ治績多シ、初メ分寧縣ノ主簿タリ、時ニ
疑獄アリ年ヲ經テ決セス、先生一訊メ立口ニ決ス
又南安縣ニ獄囚アリ、其罪死ニ當ラス、轉運使王逵
私怨アレヲ以テ、深ク之レヲ罰セントス、然レモ逵
素コリ苛刻ノ吏ナルヲ以テ、敢テ其可否メ言フモ
ノナシ、茂叔獨リカメテ之レト爭フ、逵聽カズ、茂叔
即日辞表ヲ呈シテ去ル、人ニ語テ曰ク、此ノ如キモ

官吏ト云フ可キカ、人ヲ殺メ以テ私怨ヲ脩ム、吾レ
席ヲ同フスルヲ恥ツト、遠聞テ感悟シ其罪ヲ減ス、
後疾ヲ以テ請フテ南康軍ニ知タリ、蓮華峰下ニ家
ス、卒スル年五十七、黃庭堅其氣象ヲ稱シテ曰ク、濂
溪ノ胸中、瀟洒タル光風霽月ノ如シト、朱子常ニ云
フ、濂溪ノ學上ハ洙泗千載ノ統ヲ繼キ、下ハ河洛百
世ノ傳ヲ啓ク、胡氏ノ曰ク、周子文學ノ功ハ孔孟ノ
間ニアリ、孔子ノ道ハ周子ニ至テ明カニ、周子ノ道
ハ程子兄弟ニ至テ益々明カナリト、道國公ニ追封
シ、元公ト諡ス

天表此文世絕師承先生栢苑
 道隨以興國既形容書名丁
 壺萬古長夜拾我以明可
 仕可止從容大舍胸中風月
 世外山川 清國乘槎子



周元公



司馬光傳

姓ハ司馬名ハ光字ハ君實陝州夏縣ノ人ナリ生レ
 テ七歳凜然トメ成人ノ如シ春秋左氏傳ヲ講ズル
 ヲ聞キ還テ家人ニ對シテ之ヲ講ズルニ盡ク其主
 趣ヲ解ス是ヨリ手ニ卷ヲ放タズ殆ント飲食ヲ忘
 ルニ至ル一日群兒ト同シク庭ニ戯ル一兒甕上
 ニ登リ足ヲ失メ甕中ニ没ス羣兒皆驚愕シテ救フ
 ノ術ナシ先石ヲ持シ來リ甕ヲ擊破ス水忽チ流レ
 兒モ亦隨テ出テ活スルヲ得タリ其後之レヲ傳
 ヘテ京師ノ間此圖ヲ画テ販賣スト云フ光天下ノ

為メニ屢新法ノ弊ヲ舉ケテ極諫スト雖モ安石ノ
 障フルニ因テ用ヒラレズ是ヨリ口ヲ絶テ事ヲ論
 ゼズ然レモ詔シテ時事ヲ議セシム默スル能ハス
 シテ復タ安石ノ新法六ノ弊政ヲ論ズ元豐五年疾
 フ得テ洛陽ニ退居スル十五年兒童走卒ト雖モ皆
 司馬君實ノ真ノ宰相タルヲ知ル帝崩ズト聞キ奔
 テ闕ニ赴ク衛士望ミ見テ手ヲ額ニ加ヘテ曰ク此
 レ司馬相公ナリト至ル處ノ民道ヲ遮キリ聚テ之
 レヲ拜ス殆ント行クヲ得ザルニ至ル士民相呼
 テ曰ク公洛ニ還ル無クシテ留ツテ天子ヲ輔ケ百

姓ヲ救ハト、光懼レテ洛陽ニ還ル、己ニシテ召サレ
テ執政トナル、元祐元年、再ヒ疾ニ罹ル、嘆メ曰ク、吾
死スルモ瞑目スル能ハズ、書ヲ呂公著ニ寄セテ曰
ク、光ハ身ヲ以テ醫ニ付シ、家事ヲ以テ愚子ニ付ス、
只國家ノ事ハ一ニ公ニ屬スト、光終始身ヲ以テ國
ニ殉セント欲シ、自ラ庶務ヲ執ル晝夜急ラズ、友人
其勉勵ノ生ヲ害スベキヲ以テ諫ム、光ノ曰ク、死生
ハ命ナリト、之レヲオス益々勤ム、時ニ天下目ヲ拭
フテ新政ノ出ルヲ待ツ、而ルニ或ハ謂フ、三年父ノ
道ハ改ム可カラスト、光ノ曰ク、先帝ノ法、其善キモ

ノハ百世ト雖ル變ズ可カラズ、安石、呂惠卿ノ法ノ
如キ、民ニ害アルモノハ、之レヲ改ムル水火ヲ救フ
ガ如ク、急ニス可シ、此ニ至テ衆議一定シ、新法ヲ去
リ、略々舊ニ復ス、光ノ書端正ニシテ其人ノ如シ、其
著ス所ノ資治通鑑ノ草稿タル、字格方整ニシテ一
字モ縦マ、ニ書スルモノナシト云ス、光疾愈々篤
キニ臨ミ、茫トシテ自ラ覺ハサルガ如シ、諄々トシ
テ夢中ニ語ヲ吐ク、然レル皆朝廷天下ノ事ナリ、是
年九月薨ス、年六十八、帝其喪ニ臨ミ、大師温國公ヲ
贈リ諡シテ文正ト云フ

學向克性法明堪子者友獨狀
忠信忠貞周林福樂新西乞
學八帝志名四海業休旋乾轉
坤日月功有績道係凜然子
我精治

己卯夏。 澤一吾之 印

司馬溫公



歐陽脩傳

姓ハ歐陽、名ハ脩、字ハ永叔、醉翁ト號ス、廬陵ノ人ナリ、幼ニメ悔悟人ニ過ク、一たび目ニ觸ル、ノ書ハ輒チ暗記ス、冠スルニ及テ嶷然聲名アリ、當時文章ノ體裁、五代ノ弊習ヲ受ケ、澗、忍、沈、鬱メ振ハズ、舜元、穆脩ノ輩之レヲ皇張スルニ意アリト雖、其力足ラス、此ノ時ニ當リ、脩隋ニ游ヒ、韓愈ノ遺稿ヲ得、讀ラ之レノ慕ス、刻苦勉勵、殆ント寢食ヲ忘ル、ニ至ル、遂ニ文格ヲシテ復古セシム、嘗テ尹洙ニ從テ游ヒ、古文ヲ作り、當世ノ事ヲ論シ、互ニ相師友ナリ、遂

ニ文章ヲ以テ名天下ニ冠タリ、慶曆年中、仁宗天下ノ名士ヲ舉ケテ諫官トナス、脩首トメ、撰中ニアリ、初メ范仲淹ノ饒州ニ貶セララル、ヤ、脩以テ直トセス、之レヨリ朋黨ノ論起ル、脩乃チ朋黨論ヲ作り、以テ上ニ進ム、因テ時人脩ヲ視ルコト冠讐ノ如シ、然レモ仁宗獨リ其言ヲ嘉獎ス、已ニシテ杜衍等黨議ヲ以テ罷メララル、脩又上疏シテ曰ク、正士朝ニアルハ、奸邪ノ忌ム所、謀臣用ヒラレザルハ、敵國ノ福ナリト、是ニ於テ邪黨益々之レヲ忌ム、其甥張氏、官錢ヲ私用スルノ故ヲ以テ連坐セラレ、左遷シテ滁州

ニ知タリ、而メ復タ翰林學士トナリ、唐書ヲ修ム、濮
王ノ喪議起ルニ及ヒ、御史呂誨等、其議ニ脩ノ主
ルヲ誡ル、且ツ薛宗儒、脩ニ舊怨アルヲ以テ其罪ヲ
構造ス、然ルニ神宗却テ其罪ヲ効スル者ヲ詰リ黜
ケラル、脩平素風節ヲ以テ自ラ尚フ、既ニ數々汙穢
セラル、ヲ以テ連リニ職ヲ辭ス、許サレズ青州ニ
守タルニ及ヒ、青苗錢ヲ止ント請フヲ以テ、安石ノ
為メニ誡毀セラレ、此ニ至テ山林ノ意愈々切ナリ、
終ニ太子少師ヲ以テ致仕ス、蘇軾其文ニ叙シテ曰
ク、大道ヲ論スル韓愈ニ似タリ、事ヲ論スル陸贄ニ

似タリ、詞賦ハ李白ニ似タリト、當時ノ議者以テ知
言トナス、又書ヲ善クス、嘗テ書法ヲ論メ云フ、字ヲ
作ル熟セントヲ要ス、熟スレハ則神氣充實シテ餘
地アリト、其常ニ書スル所ノモノ、口ヲ衝テ文成リ、
手ニ任セテ字成ル、素ヨリ意ヲ加ヘザルモノ、如
シ、其文采字畫皆自然ニ卓絶ス、真ニ天下ノ奇蹟ト
云フ可シ、晩年自ラ六一居士ト號ス、曰ク吾レ集古
錄一千卷、藏書一萬卷、琴一張、棋一局アリ、而ノ常ニ
酒一壺ヲ置キ、老ヲ其間ニ養フ是レヲ六一トナス
ト、没スル年六十六、謚メ文忠ト云フ

勳業聞望韓范並馳
古文奧學匹休昌黎
復三代醇黜五季陋
一代宗工孰居其右

龍邱子



歐陽文忠公



蘇軾傳

姓ハ蘇名ハ軾字ハ子瞻小字ハ同文ト云ス眉山ノ
 人ナリ生レテ十歳父ニ從テ四方ニ游學ス母程氏
 親ク授クルニ書ヲ以テス古今ノ成敗ヲ問ハハ軾
 チ能ク其要ヲ語ル冠スルニ比シテ博ク經史ニ涉
 獵ス嘉祐中制科ニ舉ゲラレ累遷シテ翰林學士禮
 部侍郎ニ至ル其舉グル時歐陽公其主試タリ軾ノ
 對策ヲ得テ列メ第一トナス翰林ニ官ス便殿ニ召
 見ル太后曰ク先帝卿ノ文章ヲ見ル毎ニ大息メ奇
 オタタト云ヘリ只未ダ用ユルニ及ハスシテ崩セ

リト坐ヲ命メ茶菓ヲ賜ヒ御前ノ金蓮燭ヲ取り送
 テ院ニ還ラシム實ニ一時ノ光榮ト云フ可シ嘗テ
 上疏シテ安石ノ新法ヲ論ス安石激怒シテ其過失
 ヲ勅奏ス軾遂ニ外ヲ請フ其杭州ニ守タルヤ德政
 下ニ洽チク仁惠全州ニ及フ百姓為メニ廟ヲ立テ
 春秋時ヲ以テ祭祀シ又家コトニ軾ノ画像ヲ置キ
 以テ之ヲ享ス嘗テ堤ヲ築キテ水ヲ障ス民人呼シ
 テ蘇公堤ト云フ復タ召サレテ朝ニ入ルモ亦讒ヲ
 以テ穎州ニ知タリ其州ニ臨ムヤ即チ宿賊ヲ悉ク
 督捕シ形跡ヲ留メサラシム民賴テ以テ安キヲ得

タリ、屢々貶竄ニ遭フト雖、澹然トメ介籜スル
 ナク、至ル處ノ州縣、橋ヲ架シ川ヲ疏シ、以テ其民ノ
 便ヲ計ル、是レヨリ先キ黃州ニ謫セラレ、ヤ、田父
 野老ト溪山ノ間ニ相逍遙シ、室ヲ州ノ東坡ニ築キ、
 自ラ東坡居士ト號ス、其文體渾涵光芒、百代ニ雄視
 ス、白ラ云フ、遠ク晋ニ及バスト雖、唐ノ顔柳ノ如
 キハ、彷彿之レニ近カラント、又画ヲ文與可ニ學ブ、
 最モ墨竹ニ工ニシテ、時ニ新意ヲ出ダス、大抵意ヲ
 寫シテ形似ヲ求メズ、其竹ヲ寫ス地ヨリ一直ニ頂
 ニ至ル、曰ク竹ノ生スル時、何ソ屈幹アツテ生セン

ト、崇寧ノ間、其文詞墨蹟ヲ禁スト雖、政和ノ間ニ
 至リ、忽チ其禁ヲ弛、其墨蹟ヲ求ムルモノ夥シ、之
 レ其名手タル所ナリ、父ノ遺志ヲ繼キ、易傳論語說
 及ヒ書說ヲ作ル、又唐書辨疑東坡集等ノ著若干ア
 リ、皆世ニ行ハル、軾常ニ謂フ、文ヲ作クル行雲流水
 ノ如ク、本ト定質ナシ、其行ク可キ處ニ行キ、止ルニ
 キ處ニ止ラハ、嬉笑罵怒ノ辭ト雖、皆書メ誦スベ
 シト、卒スル年六十六、大師ヲ贈リ、謚シテ文忠ト云
 フ

英氣超厲壯思邁往忠規謹
論抗直矯枉力攘邪法亮甯
矣羔行雲披翰流水展章
榮震賜燭位新垂鈞吐芬
一代雄視千春

己卯秋八月白里生



蘇文忠



程顥傳

姓ハ程、名ハ顥、字ハ伯淳、世々中山ニ居ル、後河南ニ徙ル、進士ニ舉ゲラレ、鄆縣ノ主簿ニ任ス、時ニ茅山ノ池中、二龍ノ栖ムアリ、俗民之レヲ尊奉シテ祭祀急タラス、顥ノ至ルヤ、輒チ之レヲ捕テ、而ソ肺トナシ以テ民ノ惑ヒヲ解ク、又晋城ノ令トナリ、政功大ニ顯ハル、其邑萬餘戸アリト雖ル、三年ノ間、強盜及ヒ鬪争スレ者ナシ、其民人死スレハ、其屍ヲ焚クノ風習アリ、顥厚ク人倫ノ大義ヲ説諭ス、民始テ之レニ信服シ、其惡習ヲ廢ス、神宗其芳名ヲ知リ、數々召

シ見ル、顥因テ上書スル甚多シ、其大要タル、心ヲ正フシ、慾ヲ防セキ、賢士ヲ舉ケ、人材ヲ養フヲ以テ言トナス、務テ誠意正心ヲ以テ、主上ノ心ヲ感動セシム、王安石議メ天下ノ法令ヲ改革セントス、朝廷ノ士人之レヲ攻ムル者多シ、安石其言フ者ヲ怒リ、色ヲ厲フシテ之レニ對ス、顥議事堂ノ中央ニ坐シ、悠然トメ曰ク、天下ノ事ハ一家ノ私事ニ非ラス、願クハ氣ヲ平ラケ、心ヲ鎮メ、衆人ノ言フ所ヲ聽ク可シト、安石慚愧屈服ス、顥ノ職ニアルハ九月、數回時政ヲ議ス言ツテ曰ク、智者ノ政ヲ行フハ、禹ノ水ヲ行

ルカ如ク、其事ナキ處ニ行ルベシ、強テ險阻ニ導ク
ハ、智者ノ政ト云フニ足ラズ、古ヨリ國ヲ治メ、業ヲ
始ムルヲ見ルニ、衆議不可トスル者ハ、能ク成ルモ
未タアラザル也、況ヤ忠臣ヲ遠ザケ、公論ヲ斥ケ、
邪ヲ以テ正トナスモノニ於テヲヤ、假ヒ僥倖ニメ
一時小成スルモ、貪利ノ徒日ニ進ミ、尚徳ノ風、月ニ
衰、挽回ス可カラザルニ至ルト、出テ鎮寧軍ノ判
官トナル時ニ曹村ノ堤坊、洪水ニ因テ破壊セント
ス、即チ郡守ニ報シ、士卒ヲ激諭シ、三日ナラズノ之
レヲ塞ク、又扶溝縣ノ知事タリ、河邊ノ惡少年等、相

黨シテ往来ノ舟船ヲ脅シ、其資財ヲ掠ム、顯嚴令ヲ
下シ、悉ク之レヲ追捕シ、民人ノ害ヲ除ク、顯性質温
柔ニシテ、和氣常ニ面ニ溢ル、門人故友、數十年間相
交ルト雖、曾テ其怒容ヲ見ズ、事ニ處スル悠優ト
シ、倉卒ノ際ト雖、聲色ヲ動カサズ、哲宗位ニ即キ
召マテ、宗正丞トナス、未タ行カスシテ卒ス、年五十
四、朝野舉テ之ヲ哀悼セザル者ナシ、文彦伯衆論ヲ
采リ、其墓ニ表ス、謚メ明道先生ト云ス、

有田共之難生能令一學程矣
有德令其清其好自持其深
造之的也身大願願是一國和
譽為可也時可也名之百世
之所 桂州



程純公



程頤傳

姓ハ程、名ハ頤、字ハ正叔、明道先生ノ弟ナリ、少フメ
 卓識アリ、進退禮ニ非ラザレハ動カズ、年十八、書ヲ
 仁宗ニ上リ、世俗ノ學習ヲ論ス、常ニ王道ヲ以テ心
 ニ脩ム、大學校ニ游學ス、時ニ胡瑗、諸生ニ顔回ノ好
 ム所ハ何ノ學ナリヤト問フ、頤因テ詳カニ答論ス、
 瑗大ニ驚異シ、即チ引テ處セシムルニ學職ヲ以テ
 ス、當時ノ名士呂希哲、首トメ師ノ禮ヲ執テ事ス、治
 平元豐ノ間、大臣屢々官ニ薦ムレド、固辞メ應ゼス、
 哲宗即位ノ初メ、司馬光其德行ヲ上疏メ曰ク、河南

ノ處士程頤ナル者、文學ヲカノ聖賢ノ道ヲ好ミ、貧
 ニ安シ節ヲ守リ、年五十ヲ踰ユト雖モ官仕ヲ欲セ
 ス、真ニ儒者ノ高趣ニメ聖代ノ逸民ナリ、希クハ擢
 シテ、高官ニ拜シ、士庶人ヲシテ其風節ニ倣ハシ
 メシコトヲト、即チ詔メ西京ノ國子教授トナス、入テ
 經筵ニ侍ス、文路公其講說スル所ヲ聞テ曰ク、真ニ
 侍講ノ職ニ負カバト、程頤、蘇軾ト同ク經筵ニアリ、
 軾性戲諛ノ言ヲ喜ス、而モ頤ハ只禮法ヲ以テ自ラ
 守ル、因テ軾毎ニ之レヲ嘲侮ス、司馬光ノ卒スルヤ、
 朝廷ニ慶禮アリ、百官事畢リテ往テ弔セント欲ス、

願之レヲ不可トス、又司馬ノ孤子ヲ諭シテ、吊ヲ受
ケシメス、軾戲レテ曰ク、此禮ヲ制スルハ、市ニ狂死
セシ叔孫通ナラント、願聞テ大ニ怒リ、二人是レヨ
リ遂ニ隙ヲ成ス、願ノ門人朱光庭、賈易時ニ言官タ
リ、カメテ軾ヲ攻ム、傳堯俞、王巖叟、呂陶等相繼テ激
論ス、當時元豐ノ大臣等閑地ニ退ケラレ、皆怨ヲ含
ム、密カニ其間隙ヲ伺テ事ヲ謀ントス、而メ諸賢之
レヲ悟ラス、遂ニ黨ヲ分テ相攻撃ス、洛黨、川黨、朔黨
アリ、洛黨ハ願ヲ以テ主領トナシ、光庭易等之レカ
羽翼アリ、川黨ハ軾ヲ以テ主領トナシ、呂陶等羽翼

タリ、朔黨ハ劉摯、嵩叟等主領タリ、而メ其羽翼尤モ
多シ、未タ幾クナラズシテ願官ヲ罷ム、尋テ子瞻モ
亦罷ム、願卒スル年、七十五、書ニ於テ讀マザルモノ
ナシ、一ニ聖人ヲ以テ師トナシ、聖人ノ域ニ至ラサ
レハ止マス、兄ノ顥ト道學ヲ唱ヘ、易傳、春秋ヲ著ス、
其他ノ格言善論、二程遺書ニ詳カナリ、兄ト並ヒニ
河南ノ兩夫子ト稱セラレ、世ニ伊川先生ト號ス、詔
メ洛國公ニ追封セラレ、謚シテ正ト云フ

周禮樂生以箴儀友何冒
 然不可犯之君子所存俯仰
 無怍系世斯文物為先是然
 直也學實生治以儀是像
 瞻若足別



程正公



朱文公傳

姓ハ朱、名ハ熹、字ハ元晦、晦庵ト號ス、徽州婺源ノ人ナリ、幼ヨリ悟敏、衆童ニ過ク、紹興中進士ニ舉ケラ
 ル、泉州ノ主簿タリ、既ニメ辞シ還ル、延平ノ李侗、伊
 洛ノ學ニ通スルト聞キ、徒步シテ往キ、之レニ從テ
 學ヒ、其精力ヲ竭ンテ經傳ノ義理ヲ研究ス、紹興ノ
 末年、朝廷ノ名臣、屢々熹ヲ薦ムレ、起タズ、時ニ使
 者金ヨリ還リ曰ク、金人問フ、朱先生今尚ヲ在ルヤ
 ト、朝廷是ニ於テ乃チ煥章閣待制兼侍講ニ拜ス、常
 ニ心ニ得レ、所アレハ、必ス編次シテ帙ト成シ以テ

進ム、帝亦其言ヲ嘉納ス、一日熹上疏シテ四事ノ政
 弊ヲ極諫ス、韓侂胄聞テ大ニ怒リ、之レヲ貶斥ス、會
 ヲ浙東霖雨アリ、大ニ饑ユ、史浩乃チ熹ヲ上ニ奏ノ
 南康ニ令タラシム、辭ノ拜セス、許サレズ、遂ニ南
 康ニ至リ、其民ヲ救フノ策ヲ定メ、官ニ請フテ常平
 倉ノ粟米六百石ヲ得、貧民ニ賑貸ス、民ヲシテ夏時
 米ヲ官府ニ借り、冬ニ至テ息ヲ加ヘ償ハシム、以後
 年ノ豐凶ニ隨テ收散ノ額ヲ立ツ、凶年ニハ其息ノ
 半ヲ免シ、大饑ニ至テハ全ク其息ヲ除ク、凡ソ十有
 四年ニシテ元額六百石ヲ官ニ還納シ、餘粟三千一

百石ヲ以テ社倉ヲ設ケ、息ヲ収メズシテ貧民ニ貸
ス、是ヲ以テ一鄉四十五里ノ間、凶歲ニ遇フト雖
百姓食ニ欠乏スルモノナシ、熹ノ家素ヨリ貧ナリ、
少メ父ノ友、劉子羽ニ依テ、建陽ノ崇安郡ニ寓ス、
諸生遠キヨリ至ル者ハ之レヲ留メテ學ハシム、豆
飯藜羹ニシテ肉ヲ置カス、諸生ト共ニ之ヲ食フ、往
々人ニ貸リ以テ用ニ供ス、然レモ其道ニ非ザレハ
一介モ以テ人ニ受ケズ、淳々然トメ道ヲ修ム、日ニ
諸生ト學ヲ講シ、絶テ倦ヲ知ラス、病篤キニ及テ尚
ヲ大學誠意ノ章ヲ説クニ至ル、熹及第ヨリ五十年、

府縣ニ官タル九考、朝ニ立チ政ヲ執ル、僅ニ四十日、
奏ヲ上ル數次、常ニ君ヲ堯舜ニ致サシムルニ意ヲ
用フ、然レモ群小ノ為メニ容レテレズ、終ニ秘閣修
撰ヲ以テ卒ス、年七十一、朝野舉ツテ愛惜セサルモ
ノナシ、著々所易啟蒙、四書集註、五經集註、通鑑綱目、
近思錄、伊洛淵源錄、儀禮通解等、其他後世ニ益スル
ノ著書若干篇アリ、理宗ノ朝ニ大師ヲ贈リ、信國公
ニ追封シ、後改メテ徽國公ニ封セラレ、謚ノ文ト云
フ

天才絕出豪邁蓋世驅駕風
 霆歷聘無滯妙泄玄秘理抽
 幽深獨立詩壇傲睨古今萬
 丈光焰驚曜人目風神鬚鬢
 意氣如昨 浙東秦慎之書



朱文公



米芾傳

姓ハ米、名ハ芾、字ハ元章、吳ノ人ナリ、累遷シテ書画
 博士トナル、文ヲ作ル奇拔、必ス前人ノ軌轍ヲ襲踏
 セス、特ニ翰墨ニ妙ナリ、其書體沈著ニシテ王獻之
 ノ筆意アリ、又善ク山水人物ヲ畫キ、自ラ別路ヲ開
 ク、尤モ臨摹ニ工ニメ、真ヲ亂リ殆ント辨ス可カラ
 サルニ至ル、常ニ人ニ就テ古本ヲ借り自ラ臨摸シ、
 而臨本ト真本トヲ併セテ其家ニ還シ、其一ヲ選ハ
 シム、然レモ其家真贋ヲ分ツ能ハス、且ツ鑑定ニ精
 シ、古器物書画ニ遇ヘハ、則資ヲ傾ケテ購求ス、得レ

ハ乃チ止ム、芾蔡攸ニ舟中ニ謁ス、攸右軍ノ王略帖
 ヲ出シテ之レヲ示ス、芾驚嘆シ他ノ書ヲ以テ之レ
 ニ易ヘント請ス、攸聽カズ、芾曰ク、若シ聽カレザレ
 ハ即チ此江ニ投メ死ナント、大呼シテ舩舷ニ據リ
 墜ント欲ス、攸遂ニ之ヲ與フ、芾ノ冠服都テ唐ニ倣
 フ、風神蕭散トシテ音吐清暢ナリ、至ル處、人聚テ之
 レヲ觀ル、潔ヲ好ムノ癖アリ、人ト巾器フ同フセザ
 ルニ至ル、時ニ傳ヘテ笑柄トナス可キアリ、無為州
 ノ治下ニ巨石アリ、其狀形奇醜ナリ、芾見テ大ニ喜
 テ曰ク、此レ我カ拜ニ當ルニ足ルト、即チ衣冠ヲ具

ノ之ヲ拜シ、呼フ兄ト云フ、嘗テ詔シテ、兩詩ヲ御屏ニ草書センハ、其詩ニ中ノ字アリ、運筆ノ壯シナル上ヨリ下ニ至リ、其直キ線ノ如シ上大ニ嘉稱ス、芾即チ用ユル所ノ硯ヲ取り懐ニ入ル、墨汁淋漓タリ、奏メ曰ク、硯一タヒ臣下ノ用ニ供ス、復進御セス、敢テ拜賜スト、一日人ニ書ヲ復ス、親友密カニ窓隙ヨリ之レヲ窺フ、其寫シテ芾再ノ字ニ至レハ、忽チ筆ヲ案ニ投シ、襟ヲ整ヘ兩拜ヲナス、其人失笑ス、芾江淮ノ發勾タリ、牌ヲ行舸上ニ掲ケ、米家書画舩ノ五大字ヲ書ス、其性世ト俯仰シ權貴ニ諂フ能ハズ、故

ニ官途ニ在テ數々困ム、世ニ芾ノ書ヲ評メ云フ、真楷篆隸ニ於テハ甚タ工ナラス、惟行草ニ於テハ誠ニ能品ニ入ル、六朝ノ翰墨ヲ取テ筆端ニ収ム、故ニ痛快ナル駿馬ニ乗ルカ如シ、進退裕々如トシテ鞭策ヲ用弁サルモ、人意ニ適セザルナキガ如シト、實ニ確論ト云フ可シ、卒スル年四十九、其子仁友字ハ元暉、亦古ヲ嗜ミ書画ヲ善クス、仕テ敷文閣直學士ニ至ル、其書画ノ妙絶、或ハ元章ト頡頏ス、世仁友ヲ小米ト號シ、元章ヲ老米ト呼フ、父子同シク、書畫ヲ以テ一世ニ雄飛スト云フ

河南廣二王魏止徧在
有宗皆讓當廣聲神羅
禍成神物忠諫坐德財
昏必驚惡具

己卯秋子家於居卷蓋於寺屋

吾回西川壤



米南宮

陸象山傳

姓ハ陸、名ハ九淵、字ハ子靜、象山ト號ス、生レテ三四
 歳ノ時、其父ニ問テ曰ク、天地ハ何レノ所ニテ窮マ
 ルヤト、父笑テ答ヘズ、遂ニ深ク思フテ、寢食ヲ忘ル
 ルニ至ル、總角ニ及シテ、進退舉止、世間ノ兒輩ト異
 ニ、頗ル大人ノ風アリ、見ルモノ敬畏セザルナ
 シ、一日古書ヲ讀テ、宇宙ノ二字ニ至ル、解スル者ノ
 曰ク、四方上下ヲ宇ト云ヒ、古往今來ヲ宙ト云フト、
 子靜忽チ悟ル所アツテ曰ク、宇宙ノ事、今レハ宇宙
 内ノ事モ亦乃チ今ルト、後チ進士ノ第ニ登ル、行ク

處天下ノ士爭フテ從游スルモノ多シ、其平生談ス
 ル所、自然ニ人ヲメ感動セシメ、志ヲ立ツル者甚タ
 多シ、子靜人ヲ教ユル、敢テ學問ヲ以テセズ、若シ生
 徒等小過アレバ、其中情ニ適スルノ言ヲ以テス、故
 ニ恥チテ汗ヲ流スモノアリ、初メ靖安簿ニ任シ、尋
 テ除國子正ニ進ム、靖康ノ間、徽宗、欽宗ノ二帝、金屬
 ノ為メニ擒セラル、ノ事ヲ聞キ、慨然トメ復讎ノ
 志ヲ立ツ、因テ其策ヲ奏論ス、帝嘉納シ之レニ任セ
 ントス、幾クナラズメ將作監丞ニ除シ、擢シテ、荆
 門軍ニ知タリ、管下ノ民訟フルモノアレバ、朝暮ニ

係ラス即チ訟庭ニ引キ懇口ニ之レヲ紕シ其情ヲ
酌量シテ則チ決ス而多クハ勸解シ去ラシム若シ
頑陋ユノ理ニ服セザルモノハ始テ之レヲ法ニ處
ス茲ニ於テ境内ノ人民善ヲ尚ヒ惡ヲ疾ムトヲ知
リ群盜剽掠ノ害自ラ屏息ス抑荆門ノ地タルヤ邊
塞ニ近シト雖モ未タ城寨ノ備ハナシ乃チ朝廷ニ
請フテ之レニ築ク以後戎虜ノ患漸次ニ絶ユ政令
下ニ行ハレ訟獄殆ント息ミ民俗終ニ一變ス子靜
素ヨリ新安ノ朱熹ト友トシ善シ一日熹ヲ訪フテ
君子ハ義ニ喻リ小人ハ利ニ喻ルノ一章ヲ講ス滿

坐聽クモノ感涙ノ垂ル因テ之レヲ石ニ刻メ講堂
ノ門外ニ立ツ朱熹嘗テ曰ク古聖ノ教法ハ規定ア
ルカ如ク博學審問慎思篤行ヲ以テス人ノ性タル
剛柔賢愚ノ別アリ隨テ教法モ亦差違勿ル可カラ
ス象山此ニ見アリ其教法ヲ見其人ニ由テ施ス所
一ナラズト一日子靜家人ニ語テ曰ク吾レ將ニ死
ナント又僚屬ニ告テ曰ク某將ニ終リテ告クト乃
チ沐浴シテ衣ヲ更ヘ端坐シテ日中ニ至ル而メ卒
ス葬ニ會スルモノ千ヲ以テ數ス謚シテ文安ト云
フ

學探本原先立大體從聖功
 夫立接曾為高弟何子義
 魏身融聖道大中定二其殊
 途 己如林曰 春回春



陸文安



文天祥傳

姓文諱天祥字宋瑞文山ト號ス吉州ノ人ノ
 體貌肥大ニシテ白膚玉ノ如シ童時學校ニ祭ル
 所ノ歐陽脩胡銓等ノ像皆忠ト諡スルヲ見欣然ト
 ノ曰ク身此間ニ列スルヲ得ザレハ男兒ト云フ可
 カラスト年二十進士ニ舉ケラレ對策ス其文章萬
 餘言ノ多キモ稿ヲナサス一揮レテ忽チ成ル帝親
 カラ拔テ第一トナス後チ官ヲ累チテ丞相ニ至ル
 初ノ學士タル時言ヲ以テ相國賈似道ニ忤ス忤ケ
 ラレテ贛州ノ知事タリ時ニ元ノ兵宋ヲ伐ツ江上

ヨリ急ノ報ス詔メ天下勤王ノ士ヲ募ル天祥詔ヲ
 奉シテ涕泣シ即チ郡中ノ豪傑ヲ發シ之レニ應セ
 ントス方人元兵ノ夥多ニメ敵ス可ラガルヲ以テ
 之レヲ止ハ天祥曰ク吾亦然ルヲ知ル然レモ其食
 ヲ食フ者其難ニ死スルハ人ノ通義ナリト悉ク家
 財ヲ傾ケ以テ軍費ニ充ツ遂ニ師ヲ起シテ元兵ヲ
 拒ク然レモ寡力固ヨリ支フル能ハズ其麾下ヲ率
 井テ海豐ニ遁ル途ニメ執ハラレ京師ニ送ラル其
 道ニ在テ食セサルヲ八日猶死セス元ノ丞相孛羅
 召テ見ル天祥揖メ腰ヲ屈セス孛羅曰ク德祐ノ幼

君ハ汝ヲノ主ナリ、今其主ヲ棄テ、而ノ二王ヲ立ツ
 ルハ忠ナリヤ、天祥曰ク、德祐ハ吾君ト雖、不幸ニ
 ノ國ヲ失ヒテ外ニアリ、故ニ二王ヲ立テ以テ社稷
 ノ全フセントス、守羅曰ク、汝二王ヲ立テ何ヲ為シ
 トス、天祥曰ク、吾レ君ヲ立テ宗廟ヲ存セント欲ス、
 一日存スレハ、一日臣子ノ令フ盡ス、臣ノ君ニ事フ
 ル子ノ父母ニ事フルカ如シ、父母病アレバ、治ス可
 カラズト雖、藥ヲ施サバ、ルノ理アラシヤ、為ス能
 ハサルハ天ナリ、天祥ノ今此ニ至ル、死アルノミ何
 ソ多言セン、守羅怒テ獄ニ囚ス、天祥燕京ニ留ル三

年一小樓ニ坐卧シ、足地ヲ履マス、元ノ帝乃チ天祥
 ヲ召シ諭シテ曰ク、汝何ヲ願フヤ、天祥曰ク、願クハ
 一死ヲ賜ハ、幸ナリト、左右之レヲ殺スヲ勸ム、帝
 乃チ有司ニ命シ、燕京ノ刑場ニ斬ラシム、天祥刑ニ
 臨ミ、從容トシテ吏卒ニ謂テ曰ク、今日我カ事畢ル
 ト、南向シ拜ノ而死ス、年四十七、其妻歐陽氏、其屍ヲ
 収ムルニ、面尚ホ生ルカ如シ、張毅甫ナル者、天祥カ
 遺骨ヲ負テ吉州ニ歸葬ス、此日林某氏亦惠州ヨリ
 天祥ノ母夫人ノ柩ヲ舁テ至リ、共ニ葬ルヲ得
 リト云ス、

於梨而山忠節所
 免荷綱常還報前聖
 可氣不為百世揚時
 山以時流風靈廟漢



文丞相



唐宋二十一家像傳坤終

跋

其人之綽約與世異其風其樂之
汪洋不與俗同其流其攸胡麻
其者異果天氣煦和百鳥向
別開寰宇而幽者武陵之
桃源也桃源記成於陶靖節當時劉宗興
隆靖節有不堪其慨者故屬言於

此持設自家之心境也。望浦河原君
頃著唐宗世一家像傳，蓋亦有
寓意在焉。近來時好一受朝回法
律，暮學經滌，翹之有唯，豈是務
而出其自處者，則守節於馬晉
者，蓋亦稀矣。今君之敘其迹，不遠
求幽冥之境，近求古蹟之間，其心

可謂正而不偏矣。吁！請於即一遊
於虛境，君遊於實境，其所遊
者一也。故其所以益世道人心
者，則吾將舍彼而取此焉。
明治十二年歲次己卯十月上
浣

霞卿居士題



畫史 伊藤蘭溪



副刻 木邨徳方郎



明治十二年六月三日 版權免許
同 十三年一月廿五日 出版

沈香書閣藏



編輯人

東京府平民

河原英吉

芝區新錢座町
拾六番地

出版人

同

永尾銀次郎

日本橋區通壹
町目六番地



